

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H27-04	課題名	廃棄物最終処分場の排水等に係る適正かつ低コストな処理方法の検討に関する研究					
期間	平成28～30年度	担当部課室	環境科学部 水質科					
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 本課題は、「新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)」に掲げる基本目標「循環型社会の形成」における主要施策である廃棄物の適正処理の推進及び基本目標「安全な生活環境の確保」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 廃棄物最終処分場の排水等は埋め立てが終了した後も安全(継続的な基準適合)が確認されるまで適正に処理等することが求められるが、埋め立て物の性状等によっては多額の経費を要する場合もある。また、適正な処理等が行われなかった場合には、周辺環境の汚染や健康被害発生の恐れも懸念されるため、適正かつ低コストに水処理できる技術の開発が求められている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 排水等が適正に処理されなかった場合に生じる周辺環境の汚染や健康被害発生を未然に防止するため、廃棄物最終処分場設置業者に対し、適正処理指導及び技術的な支援を行うことは県の責務である。</p> <p>4 事業の緊要性 現在、廃止に向けた維持管理を行っている県内の最終処分場において、水処理に多額の経費を要している事例や新たに規制された物質が検出されることがあり、事業者の経理的基礎等を勘案すると、低コストで適正な処理方法の導入による早期の基準適合と経費の縮減が喫緊の課題となっている。</p>							
	調査研究の概要	<p>1 目標 廃棄物最終処分場からの排水等を適正かつ低コストで処理できる技術を検討する。</p> <p>2 実施内容 ・ 県内処分場の排水等について水質の性状調査を行う。 ・ 小規模な実験装置を用いた浄化実験を行い、処理工程の適正化やコスト面での検討を行う。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 廃棄物最終処分場の水処理に関する基礎的な処理方法(技術)はある程度確立されているが、個別の処分場に対する検討は少ない。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現の可能性 あり 難易度 中</p> <p>5 実施体制 4名</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 処分場に最適な水処理方法は、他の処分場の維持管理にも応用できると考えられる。また、各処分場の排水等が改善できれば、廃棄物行政における指導の一助となる。</p> <p>2 普及方策 年報掲載、学会発表、県民局等に情報提供</p> <p>3 成果の発展可能性 より低コストな処理方法が確立できれば同様な事案にも活用でき、廃止に向けての基準適合が期待できる。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	28	29	30
(処分場の情報収集) (室内での浄化実験) (結果の取りまとめ・報告)								〔単位：〕 千円
		計画事業費		212	212	212	636	
	一般財源	212		212		636		
外部資金等	0	0		0	0			
人件費(常勤職員)	5,600	5,600		5,600	16,800			
総事業コスト	5,812	5,812	5,812	17,436				

